

## 国

### 国内データセンターにおけるサーバ設置台数を発表 事業者データセンターのサーバ設置台数は、 93万6,502台で全設置台数の34.0%

● IT専門調査会社のIDC Japanは、2010年末時点における国内データセンター（DC）におけるサーバ設置台数（インストールベース）を発表した。これによると、2010年末時点における国内のサーバ設置台数は275万7,867台で、事業者DCが34.0%にあたる93万6,502台、企業内DCが40.6%の111万8,913台、DC外の設置台数が25.5%と試算している。

本レポートの事業者DCとは、顧客へのサービス提供のために必要なインフラとして建設されたものを指している。事業者の種類としては、ホスティング事業者、コンテンツ配信事業者、ネットワークサービス事業者などがあげられる。一方企業内DCとは、1つの企業がプライベートに所有し、当該企業のIT部門がサーバやストレージ、ネットワーク機器などの調達権限を持ってコントロールしているものを指している。またDC外とは、マシンルームなどの独立した部屋ではなく、例えば、オフィススペースや店舗のバックヤードなどの設置場所がこれにあたる。加えて、DCの規模をIT機器設置スペースの面積をもとに、500㎡以上を大規模DC、100～500㎡未満を中規模DC、50～100㎡を小規模DCとして分類している。

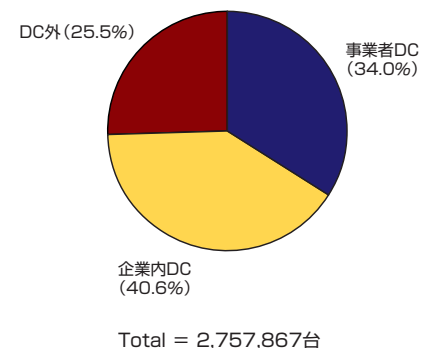
国内DCにおけるサーバ設置台数をDCの規模別にみると、事業者DCでは大規模DCに集中しているのに対して、企業内DCでは大規模、中規模、小規模DCに分散している。事業者DCでは、大規模DCが93万

6,500台の69.9%を占め、大規模DCの1サイト当たりの平均サーバ設置台数は約3,800台となる。一方、企業内DCでは、大規模DCが26.4%、中規模DCが18.4%、小規模DCが24.9%を占め、企業内DCの大規模DCにおいては、1サイト当たりの平均サーバ設置台数は約210台となった。

同じ「大規模」に分類されるDCであっても、事業者DCが大規模化している一方で、企業内DCは自社もしくは自社グループのシステムのみ設置できればよいので相対的に規模が小さいことが、平均サーバ設置台数が桁違いである背景として、本レポートは指摘している。また本レポートは、企業内DCではメインフレーム、RISC & IA64サーバ、およびx86サーバの異機種混在環境であることが多く、ホスティングサービス事業者などのように単一機種で統一されている環境よりも、設置効率が悪いと考えられる。

IDC Japan サーバ・リサーチマネージャーの福富里志氏は、「クラウドサービスの普及によってITの

所有から利用を重視した導入形態へとシフトが進んでいる。ITリソースの最終利用者、購入者／所有者、地理的な設置場所の多様化が進み、それらの組合せも複雑化していく中で、ユーザー企業は、DCなどのインフラを含めたIT資産の棚卸しと、めまぐるしく変化するビジネス環境に柔軟に対応すべく、明確な中期戦略を策定し実行に移すべきである」と語っている。



国内サーバ設置台数：  
設置場所別構成比（2010年時点）

Source：IDC Japan 1/2011

#### ● お問い合わせ先 ●

IDC Japan(株)セールス

TEL：03-3556-4761

E-mail：jp-sales@idcjapan.co.jp

URL：http://www.idcjapan.co.jp/